

教育最前線

連載 24

●大阪府吹田市・自転車安全運転免許証交付講習会

多くの市民に自転車の正しい交通ルールと事故を未然に防ぐ安全な運転方法を学んでもらうために

「自転車安全運転免許証交付講習会」の内容

1 講義

自転車はクルマの仲間であるため道路の左側を通行することや、歩道の通行方法等に関するルールについて、吹田警察署の講師の方が丁寧に説明。また、ビデオの視聴を通して二人乗りや並進、傘差し運転等は法律で禁止されていることを学ぶ。



小・中学生とその保護者、高齢者など85名が3時間の講習を熱心に受講

春の全国交通安全運動期間中の5月15日、大阪府吹田市内の吹田自動車講習所で自転車安全運転免許証交付講習会が開催された(主催…「交通事故をなくす運動」吹田市推進協議会(以下、協議会))。この講習会は春と秋の年2回、小学3年生以上で自転車を運転される方を対象に実施。(事前の申し込みが必要、参加費は無料)。講習を受けると、自転車安全運転免許証が交付される。講

2 自転車の安全点検説明

吹田自転車組合のスタッフがブレーキやタイヤなど自転車の点検箇所を解説。安全に利用するためには、自分の体格に合わせてサドルの高さを調整しておくことも重要であるとアドバイス。



3 事件事例再現

クルマと自転車による典型的な事故を回避する運転技能を紹介。左折時の内輪差による巻き込み事故や、駐車車両の間から飛び出してクルマと衝突する事件事例などを再現。



4 実技講習

「止まれ」の標識のある交差点では、一度止まってから首を左右に動かし、安全確認を行うよう基本動作を指導。



コースの途中には、パイロンスラロームや8の字など高度なバランス感覚を養うための走行環境も設定されている。



講習会当日の役割分担として、講習を吹田警察署、自転車の安全点検を吹田自転車組合、実技指導を吹田自動車講習所、免許証の作成を吹田市役所が担当している。協議会の事務局を務める吹田市役所交通政策課主査の泉雅之さんに、講習会を始めた経緯を尋ねると、「既に実施していた高齢者を対象にした自転車講習を全面的に見直し、幅広い市民の方々に自転車の安全運転を啓発する必要があると考え、近隣各市での実施事例を参考に、平成17年より免許証交付という新しい啓発スタイルを採用して開始したのが、現在の形になっています」と話す。この日は子どもから高齢者まで85名が受講した。

ポイント①

受講する小学生全員に自転車用ヘルメットを進呈

受講する小学生には自転車用ヘルメットが無料進呈され、実技講習を受ける時に着用してもらっている。道路交通法では、13歳未満の児童・幼児の保護責任者は幼児を自転車に乗させる時、児童・幼児が自転車を運



小学生には自転車ヘルメットが進呈された

典型的な自転車の事件事例を再現 講義では講師役の、吹田警察署交通課長の澤池祥之さんが自転車の交通ルールについて説明。その後、屋外のコースで、典型的な自転車事故の再現事例を見学。教習所の指導員たちがクルマと自転車に分乗し、迫力ある事故事例の実演を披露し、どのようにしたら事故を防げるか受講者に考えてもらう。その後、指導員が正しい危険回避

ポイント②

市立の全小学校において自転車の交通安全教育を実施

実技講習が終わると、全員に自転車安全運転免許証が交付される。自分の顔写真の入った免許証を手にした子どもたちは笑顔で浮かべ、最後に吹田警察署の澤池課長が「今日、学んだことを近所の人や、学校の友だちに伝えてください」と講評を述べ、講習会は終了した。協議会では、この講習会とは別に、園児や小学生に対する交通安全教育を実施している。その1つが、市立小学

ポイント③

交差点では止まって安全確認の励行

最後に、受講者全員が自転車に乗り、指定されたコースを走行する。スタート直後の「止まれ」の標識のある交差点では、停止線の手前で必ず止まって、左右の安全確認を行うこと。前方に駐車車両がある場合は、一度止まって後方を振り返り、クルマが来ていないことを確認して回避するようアドバイスした。

の模範走行を示し、受講者は安全な走行方法を学んだ。



吹田警察署の澤池課長より受講者代表に免許証を交付

吹田警察署管内での自転車に関係する交通事故の発生はこの5年間でわずか1件、件数に占める重傷者の割合も減少傾向にあるものの、「万一、事故の加害者になると、高額な賠償金を請求されるケースもある訳ですから、多くの市民の方々に講習を受けていただき、自転車の安全利用を推進していきたいと考えています」と泉主査は語る。



吹田市役所交通政策課主査の泉雅之さん

